

創造学報

Toyohashi Sozo University News

地域・職業教育・人間教育

2024.春号
VOL.49



- P1——**特集1** 短期大学部創立40周年記念特集①
市民大学トラム／第39回青い空コンサート
- P3——**特集2** 短期大学部創立40周年記念特集②
「とよたんの日」卒業生表彰／同窓会
- P5——**特集3** 地域の未来を考える
- P7——**特集4** 地域の健康を支える活動
- P9——**創造トピックス**

第39回青い空コンサート
12月2日(土)
穂の国とよはし芸術劇場プラット



豊橋創造大学
豊橋創造大学短期大学部

地域とともに、次世代を育て、未来につなぐ。

豊橋創造大学短期大学部創立40周年記念事業報告

2023（令和5）年、創立40周年を迎えた豊橋短期大学（現・豊橋創造大学短期大学部）は、40周年を記念し年間を通して、学内外で様々な記念事業を実施しました。地域の人たちの力添えと応援で創立した本短期大学部が、地域とともに歩み、地域に活躍する人材を育てる「実践的教育」に取り組み、2022年度までに10,744人の卒業生を地域に送り出しました。こうした歩みを振り返り、その成果を披露するとともに、地域の人たちと連携し、地域の未来につなぐ事業を展開しました。

2023年度市民大学トラム

豊橋創造大学短期大学部・豊橋市教育委員会連携講座

テーマ「地域の未来を考える」

「市民大学トラム」は、豊橋市内にある3大学と豊橋市教育委員会が連携して開催する公開講座です。2023年度の本学による市民大学トラムは、創立40周年記念事業の一環として企画し、短期大学部の教員と各分野の最前線で活躍している人たちをゲストスピーカーとして招いて実施しました。

01 講座 9月9日[土]

「多様な学びの場」 — 子どもから大人まで —

講師
キャリアプランニング科 井原淑雅
ゲストスピーカー
株式会社はるか 代表取締役 廣田泰彦氏



井原淑雅講師は、社会のニーズに対応した社会人の学び直し（リカレント教育）について説き、その上で小中学生の不登校問題を取り上げ、多様な教育機会の必要性について話しました。豊橋市内で放課後等デイサービスを運営する廣田泰彦氏は、「子どもに合った支援」における産学官連携の重要性について話しました。

02 講座 9月30日[土]

「子どもの貧困とヤングケアラー」 ～その影響と豊橋市の子どもまんが施策～

講師
幼児教育・保育科 准教授 葛谷潔昭
ゲストスピーカー
豊橋市子ども若者総合相談支援センター
“ココエール”副センター長 北村充氏



葛谷潔昭准教授は、子ども基本法や子どもの権利条約などを読み解き、貧困が子どもに与える影響について話しました。北村充副センター長は、子どもの貧困とヤングケアラーの現状を踏まえたうえで、

「豊橋市の子どもまんが施策」について紹介し、子どもの貧困に対しても孤独・孤立対策が重要と強調しました。

03 講座 10月20日[金]

「ヒトの育ちを科学の 視点で理解する」 ～ポストコロナ社会に生きる 次世代人類に向けて～

コーディネーター
幼児教育・保育科 教授 朝元尊
ゲスト講師
京大大学院 教育学研究科
教育学環専攻教育・人間科学講座 教授 明和政子氏



明和政子教授は、コロナ禍で育つ日本の子どもの現状について話したうえで、「生物としてのヒトの脳と心の育ち方」について提言。乳幼児期は、環境の影響を強く受けて、脳が可塑的に変化する時期であり、この時期の環境経験は、「その後の脳と心の発達に直接影響する」と身近な事例を交えて話しました。その上で、「ヒトの成長には、たとえば母親に抱かれたときの心地よさなどの体験が重要」と説き、「ヒトの育ちには何が必要か、一緒に考えていただければと思う」と呼びかけました。

04 講座 12月2日[土]

「人を幸せに、私も幸せに」 ～元タカラジェンヌ、夢の続きへ～

コーディネーター
キャリアプランニング科 准教授 瀧崎優佳
ゲスト講師
元宝塚歌劇団 まほろば遊氏



元宝塚歌劇団のまほろば遊氏をゲスト講師に迎えた第4回「市民大学トラム」は、穂の国とよはし芸術劇場プラット・アートスペースで実施しました。まほろば氏は、「すみれの花咲く頃」を歌いながら登場し会場を沸かせたあと、本題へ入り、セルフプロデュース（自分磨き）について話しました。その中で、美しい声、美しい笑顔、美しい立ち姿を挙げ、参加者とともに腹式呼吸や笑顔のトレーニング、美しい立ち姿の実践を行いました。最後に、会場から20人ほどがステージに上がり、「シャンシャン」と呼ばれるブーケを手に宝塚フィナーレを実践。まほろば遊氏は、楽しそうな笑い声が広がる会場の人たちに向けて「笑顔の日々でありますように」と呼びかけました。





初の学外上演 第39回

全員が輝くコンサート をめざして

青い空コンサート



伝統を未来につなぐ ミュージカル

12月2日(土)、穂の国とよはし芸術劇

場プラット・アールスペースで、幼児教育・保育科の学生たちによる「第39回 青い空コンサート」を開催しました。開設以来、学内の多目的ホールで上演してきましたが、今回は、40周年記念事業の一環として、初の学外上演となり、地域の人たちに見てもらおう、知ってもらおうという学生たちの熱い思いが詰まったコンサートになりました。コロナ禍においても工夫を凝らして上演を続けてきた「青い空コンサート」の歴

史を振り返り、先輩たちから受け継いだ伝統と未来をつなぐストーリーをミュージカル仕立てで上演しました。

先輩たちが取り組んだように、台本も制作も合唱も楽器演奏も、すべてを学生たちが手がけ、本番に挑みました。舞



台正面のプロジェクターに映し出された先輩たちのコンサートとともに物語は進められ、先輩たちが培ってきた伝統を現在の学生たちが受け取り、未来につなぐ物語を展開。その中で、和太鼓、身体表現活動、ボディーパーカッション、合唱など、幼児教育の授業での学びを演技で表現し、披露しました。クライマックスでは、「新しい未来に向かって、仲間と子どもたちを思い、新しい未来を創造しよう」と呼びかけました。



地域の現役保育士たちと共に考える

ドキュメンタリー映画 「こどもかいぎ」上映会&「おとな会議」開催

8月19日(土)、ドキュメンタリー映画「こどもかいぎ」の上映と、参加者による「おとな会議」を開催しました。豊橋、豊川、新城などの各市から現役保育士など40人が参加しました。

映画「こどもかいぎ」は、子どもたちが「かいぎ」をする保育園を1年間にわたって撮影したドキュメンタリーで、2022年7月に公開されて以来、「子どもたちの目線で見ることが社会が抱える課題を解

決するヒントになるのでは」と各方面で注目されている映画です。参加者はいずれも熱心に視聴し、映画の中の子どもたちを共に見守っているような様子でした。

上映後に行われた「おとな会議」では、映画の感想を発表し合い、地域の保育について意見を交換。映画「こどもかいぎ」の子どもたちが徐々に自分の言葉で話せるようになる姿を見て、「経験の積み重ねが子どもの将来的な事柄につ



ながっていくことを再認識した」などの感想がありました。

幼児教育・保育科の佐野真一郎科長は、「多様化する保育のニーズへの対応と、東三河の保育の活性化において、今後につながる何らかの“気づき”があればうれしい」と期待を寄せました。

キャリアプランニング科の学生たちがホスピタリティ研修

ディズニーテーマパーク における「ホスピタリティマインド」を学ぶ

キャリアプランニング科は、「サービスマインドを学ぶ」をテーマに「ホスピタリティ研修」を実施し、ディズニーランドの元キャストによる特別講演と、東京ディズニーランド・シーで学ぶ1泊2日の体験研修を行いました。

特別講演会は7月22日(土)、キャリアプランニング科1、2年生全員を対象に本学で開かれ、「私が体験したディズニーマジック・感動のサービス」と題してデ

ィズニーランド元キャストの香取貴信氏が講演。学生たちは、香取氏のキャスト時代の体験談を聞き、ワークを通してホスピタリティに必要なコミュニケーションなどを体験。ディズニーテーマパークにおける「ホスピタリティマインド」や「コミュニケーションスキル」を学びました。

9月、1泊2日で行われた東京ディズニーランド・シーでの体験研修には、希望者70人が参加。学生たちは、7月の



特別講演で香取氏から学んだ東京ディズニーランドのキャストの心構えやお客様へのホスピタリティを実際に現場で体験。感動や発見とともに、これから自分がどのように働くかを考え、職業人としての意識を高める経験になりました。

地域で活躍する卒業生の功績をたたえる

「とよたんの日」卒業生表彰



12月2日(土)、穂の国とよはし芸術劇場プラット・アールスペースで創立40周年記念事業「とよたんの日」卒業生表彰が行われました。

地域で活躍する卒業生で各所から推薦された12人を表彰し、一人一人の

功績に対して、「卒業生の模範である」とたたえました。

伊藤晴康学長はあいさつで、「地域の人たちからの信頼は、卒業生の皆さんの努力の賜物」と述べ、「本学にとって明日を担う人材を育成することは何よりも地域への貢献。それに応えていただいた」と感謝しました。

受表彰者を代表し、幼児教育科(現:幼児教育・保育科)卒業生で、現在、特定非営利活動法人てのひらの理事長を務める大石政和さんがお礼の言葉



を述べ、「学生時代の思い出がフラッシュバックし、学び直して入学した当時の気持ちを思い出しました。これを機に、気持ちも新たに地域貢献の一助になるように事業に取り組んでいきたい」とあいさつしました。

その後、和やかな雰囲気の中で記念写真を撮り、懇親を深めました。

同窓会から——卒業生が集い、未来を語る。



第11回創造同窓会総会 懇親会

「より多くの人に参加できる
同窓会をめざしたい」

9月9日(土)、本学を会場に、第11回創造同窓会総会と懇親会が開かれました。議事に先立ち、田村友宏会長は、卒業生が4,000人を越えたことに触れ「より多くの人に参加できる同窓会を目指し努力していきたい。どんどん意見を寄せてほしい」と呼びかけました。

来賓として出席した伊藤晴康学長は、「ブランドビジョンやロゴマークが変わり、大学の良さがより際立ったものになりました。目指すものは変わりません。“創造”という言葉に誇りをもち、自分なりの“創造”を積みかさねて仕事に邁進してください。皆さんのご活躍を祈念いたします」とあいさつしました。

その後、リニューアルした体育・文化ホール1階カフェテリアに移動して懇親会を開き、互いの近況を報告し合い、交流を深めました。

田村友宏会長 | 経営情報学科第6期生

「専門性を生かして活躍する人から起業した人まで、他業種交流の場となりました。情報を交換しあい、楽しめるコミュニティとして同窓会を発展させ、今後は同窓会発信の講演会なども行っていきたいと考えています」



渡辺聖之副会長 | 理学療法学科第1期生

「卒業後、理学療法士として13年間、病院に勤め、現在は介護保険事業に携わり、リハビリ職を生かせる歩行特化型デイサービス事業を始めました。今回の同窓会は、他業種との交流を持つ良い機会になり、刺激になりました」



短大部同窓会総会と 卒業生の集い

「意見や支援をもとに、
同窓会発展に努めたい」

10月29日(日)、創造祭開催中のなか本学で、第39回豊橋創造大学短期大学部同窓会総会と卒業生の集いが開かれました。

総会のあいさつで白井孝代会長は、「同窓生の皆様が、楽しいひとときを過ごすことのできる会をつくるために努力していきたいと考えております。同窓会発展のために、皆様からの貴重なご意見とご支援、よろしくお願いします」とあいさつしました。

伊藤晴康学長は来賓あいさつで、短期大学部が40周年という節目の年を迎えたことに対して「これは卒業生の支援の賜物」と感謝し、「地域に開かれた短期大学として人材育成に努めていきたい。これからも理解とご協力をお願いします」と述べました。

総会終了後、別教室に移動して「卒業生の集い」を行い、ゲームなどをしながら交流し、楽しい時間を過ごしました。



専攻科福祉専攻同窓会 「福祉の里」

同窓生のつながりが新たな
絆を生み出す

2022年3月に最後の卒業生を送り出した専攻科福祉専攻(介護福祉士養成課程)の卒業生たちによる専攻科福祉専攻同窓会「福祉の里」が、創造祭開催中の10月29日(日)、本学で開かれました。1回生から20回生までの卒業生と元教員約20人が集い、遠方の卒業生はオンラインで参加。それぞれの近況や在学中の思い出などを語り合いました。同窓生たちの多くは介護福祉職者として地域を支える仕事や活動に取り組み、同窓会「福祉の里」で交流を続けることで新たな絆が生まれています。



SDGsへの取り組み

持続可能な社会を目指し、継続的にSDGsに取り組むキャリアプランニング科は、2023年度も地元大手企業のサーラコーポレーションとパートナーシップを組み、学内外で活動しました。

17 パートナーシップで目標を達成しよう



創造祭で「豊橋SDGsすごろく」を実施

10月29日(日)、大学祭で、キャリアプランニング科瀧崎ゼミによる「豊橋SDGsすごろく」を開催しました。楽しみながら「豊橋のSDGs」について学ぶというオリジナルすごろくで、小さな子どもから大学生まで一緒に楽しみながら、持続可能な社会について共に考えました。各回とも満席で大盛況でした。参加者からは、「学校で学んだことの復習になった」「楽しくSDGsについて学べた」などの感想がありました。

パートナーシップ企業として、サーラコーポレーションからフェアトレードのエコバッグなどの提供があり参加賞として活用。参加者に喜ばれました。



豊橋市主催「530のまち環境フェスタ」に出展

11月4日(土)に開催された、豊橋市主催の「530のまち環境フェスタ」にキャ

リアプランニング科がサーラグループとコラボ出展しました。豊橋市は、「自分のゴミは自分で持ちかえりましょう」の合言葉で「530運動」を推進しています。

出展ブースでは、大学祭で実施した「豊橋SDGsすごろく」を行い、来場者を楽しんでもらいました。「たくさんの親子連れの参加があり、『SDGsについて考えるよい機会になった』と喜んでもらうことができました」と参加学生たち。地域の人たちとの交流を通して、継続することの大切さを学ぶイベントになりました。



第5回SDGsワークショップ「カレーの衝撃」開催

2022年度から(株)サーラコーポレーションと共同で企画運営している取り組みにSDGsワークショップ「カレーの衝撃」があります。「オリジナルカレー」を考える過程を通して持続可能な社会について考えるというユニークな

ワークショップです。各方面からオファーがあるほど、活動が浸透してきました。

2023年度も8月に豊橋市駅前通にあるemCAMPUS STUDIOで開催し、他市の市民団体の人たちや他大学の学生など、様々な人たちが参加しました。高校生の時から参加し今回で3回目という本学の学生は、「毎回、新しい発見があります。考えるだけでなく実際にSDGs活動に取り組みたいと思っています」と話しました。



愛知県主催「Let's エコアクション in AICHI」に経営学部プロジェクトチームが出展

11月4日(土)に豊橋公園で開催された、愛知県主催の「Let's エコアクション in AICHI」に、本学経営学部経営学科の鈴木ゼミの学生たちが出展しました。このイベントは、地球にやさしい身近な環境配慮行動「エコアクション」の実践を促進するために開かれたイベントで、会場には、地球にやさしい様々なアイデア企画や商品が紹介されました。

そのなかで参加学生たちは、2チームに分かれて行っている「SDGsに貢献できる商品開発プロジェクト」の活動をPRしました。豊橋チームは「コーヒー豆のかすを利用したドリップバー」を、浜松チームは「スマートライフBOX」の企画・開発について、チラシ等を使って来場者に説明。豊橋チームは、ドリップバーの試作品を展示して来場者に感想を聞いたり、商品化に向けての要望や意見を集めました。

子どもたちの未来を考える

地域で活躍する保育者を育てる大学として、
社会が抱える課題について考える
セミナーや講演なども積極的に開き、
地域の人たちに様々な情報を発信しています。

大学祭で「ヤングケアラー」 について考える学生向けフ ォーラムが開かれました

10月28日(土)、大学祭のイベントの
一つとして、「ヤングケアラー」について
考える学生向けフォーラムが開催されま
した。ゲストに、ヤングケアラー経験をも
つお笑い芸人のキンタロー。さんを招き、
会場の人たちと共に考えながら進められ
ました。

第1部では、ヤングケアラー協会の
理事の高垣内文也氏が、「ヤングケアラ
ーの定義と現状と今後について講演しま
した。

第2部では、キンタロー。さんが、本学
の学生らとのトークセッションをしながら、
「手探り状態で父親をケアしていた」こ
ろの経験を話しました。キンタロー。さん
は、「どこに相談したらよいかなど自分に
知識があればもっと良いケアができたと
思う」と話し、様々な知識を持つことの必
要性を強調しました。

その上で「自分がケアする立場になっ
た時、一人で頑張らず、助けを求めて
積極的に声をあげることも大事。自分自
身の人生も大事にしてもらいたい」と呼
びかけました。

同フォーラムは、豊橋市が進めている
愛知県ヤングケアラー(家族のケアを担
う子どもたち)支援事業の一環として行
われました。



「So Good Life Fair～豊 かな暮らしの発見～」で脳ト レ実践

8月19日(土)に開催されたサーラ
グループの夏休みイベントで、本学の
幼児教育・保育科による「親子で So
good!お手玉を使った運動遊びで脳ト
レ!」が実施されました。小さな子ども
を連れた親子約20人が参加し、「お手
玉」を使った様々な遊びを体験しました。

講師を務めたのは、幼児教育・保育
科の朝元尊教授と幼児教育・保育科
卒業生で現役の幼稚園教諭の佐藤
舞花さん。大人も子どもも盛り上がった
「お手玉」遊びとともに、佐藤さんによる
「手遊び」にも子どもたちは積極的に
参加し、会場を沸かせました。

朝元教授は、参加者に、「手指は第
2の脳。手を使うことで脳は活性化され
ます。お手玉遊びもぜひ続けてくださ
い」と呼びかけました。

今回の学外イベントに協力した佐藤
さんは、「幼保教諭になって2年目。学
生時代に受けた授業や経験が今の職
場のコミュニケーションに役立っていま
す。今回は講師として呼んでいただき
うれしかった。今後も協力させていただきます」と話しました。



様々な表現で平和への願いを伝える「灰色の手紙展」

「灰色の手紙展ウクライナ から届いた子どもたちの 絵」開催

2024年1月23日(火)から2月9日
(金)まで、ウクライナの子どもたちの絵
画を展示した「灰色の手紙」展が、本
学体育文化ホール1階で開かれました。
学生たちをはじめ、新聞などで絵画展
を知った地域の人たちも訪れました。

会場には、キーウやジトミルの子ども
たち(3～18歳)の作品112点を展示。
戦時下で暮らす子どもたちの思いを日
本の人たちに伝えたいとウクライナから
届けられた絵画で、名古屋市、長野県
伊那市での展示を経て、本学での開催
となりました。

子どもたちは、ロシア軍のウクライナ侵
攻の状況下で見たものや感じたものを、
色鉛筆や水彩絵の具などを使って表
現。そのなかでジトミルの子どもたちの
絵画には、戦争への恐怖、平和への願
い、家族への思いなどをつづった文章
も添えられており、来場者の多くが足を
止め、熱心に読んでいた姿がありました。
本学での展示を企画した加藤克俊准
教授は、「いろいろな環境の中で生きて
いく子どもたちがいることを知ってもらい、
少しでもウクライナ支援に協力すること
ができれば」と話しました。

同展は、本学短期大学部幼児教
育・保育科主催、NPO法人チェルノ
ブイリ救援・中部、チェルノブイリ人質
基金が協力。



教員・学生たちがそれぞれの専門性を生か

理学療法学科、幼児教育・保育科の学生有志ら

豊川市で「SOZOファミリースポーツ&健康フェス」開催



12月9日(土)、本学の理学療法学科の学生たちが地域の健康づくりをめざして企画・運営した「SOZOファミリースポーツ&健康フェス」が、豊川市白鳥町のイオンモール豊川のこもれびコートで開催されました。理学療法学科の学生たちによる「体力チェック広場」をメインに、幼児教育・保育科の学生たちによる「ふれあい広場」も開かれました。

「体力チェック広場」は、学外では初の実施。学生と教員、合わせて約60人が参加し、揃いのオレンジ色のシャツを着て来場者を迎え、体力チェック、ロコモチェック、健康相談などを行いました。

一部最新鋭機器を用いて体内の状態を知る体組成や、握力や膝伸展筋力などの筋力量チェックも行われ、来場者の関心を集めていました。

また、同大の教員10人が、測定結果に対して質問に答える相談コーナーも展開。イオンモール豊川が推奨している「イオンモールウォーキング」と連携した歩き方に関するアドバイスも好評でした。理学療法学科の学生たちは、「いろいろな年代の方と交流できて楽しい」「大学のことを知ってもらう機会として、来年以降も続けていければ」と話していました。



「ふれあい広場」は、短大部幼児教育・保育科の学生たちが実施。小さな子どもを連れた家族らを前に、手遊びやエプロンシアターを披露し、楽器制作なども行い、来場者とのふれあいを楽しみました。



働き世代のためのカラダ喜ぶ健康講座

「『首こり・肩こり・腰痛』が起きる仕組みをとらえて対処法を学ぼう」をテーマに開催



本学と豊橋市保健所との連携によるとよはし健康宣言応援事業「働き世代のためのカラダ喜ぶ健康講座」が8月29日(火)午後6時30分から開かれ、豊橋健康宣言事業所の担当者や地

域住民ら約30人が参加しました。

テーマは「『首こり・肩こり・腰痛』が起きる仕組みをとらえて対処法を学ぼう」。講師は、保健医療学部理学療法学科の富田秀仁教授が務めました。「姿勢制御」を研究の一つとしている富田教授は、首こり・肩こり・腰痛が起きる仕組みを「姿勢」という観点で捉えて説明し、その上でその場でできる簡単な対処法を実践しました。

富田教授は、暮らしの中の身近な事例を挙げて、「なぜこの姿勢がいけない



か」と問いかけながら理由を述べ、「首こり・肩こり・腰痛に関する筋肉が働く姿勢を取り続けないこと」を強調。「姿勢に気を付けて、筋肉をしっかりと休めて、そして動かそう」と呼びかけました。

して、地域貢献活動に取り組んでいます。

特定研修施設との連携講座「みんなで学ぼう健康講座」全4回開催

本学保健医療学部理学療法学科と連携する特定研修施設の医師や理学療法士らが登壇し、地域の人たちに向けて講演。今年度も、健康づくりに役立つ様々な講座が開かれました。

第1弾 令和5年 11月4日(土)

元の生活を
取り戻そう
～コロナ5類を迎えて～



社会医療法人明陽会
第二成田記念病院

健康なからだの維持、認知症、安全な食事などを取り上げ、テーマごとに具体的に展開。理学療法士による「活動量低下に伴うフレイル（虚弱）の危険性とその対策」、作業療法士による「認知症チェックと予防につなげる運動の紹介」、言語聴覚士による「嚥下（えんげ）機能のセルフチェックとバランスの良い食事について」講演し、予防に役立つ運動も実践しました。

第2弾 令和5年 11月26日(日)

動いて延ばそう
健康寿命
～腰肩膝痛予防ツアー～



医療法人整友会
豊橋整形外科向山クリニック

「腰」「肩」「膝」と部位ごとに3会場に分けて実施。膝の教室では、膝痛の原因となる筋力低下、体重の増加、柔軟性の低下について説き、参加者一人一人の適正な体重や筋力をチェック。肩や腰についても同様に実施され、この日の参加者は、3つの痛みについて、その原因と日常生活での注意点をじっくりと学び、その上で予防体操をしっかりと体験しました。

第3弾 令和5年 12月9日(土)

首・背骨・腰
～こんな症状に
御用心～



医療法人宝美会
総合青山病院

総合青山病院副院長の笠井裕一医師が講義。前半では、長年ミャンマーで携わってきた現地の医療スタッフへの指導、教育などの経験談を通して、首・背骨・腰の病気についてわかりやすく解説。後半では、受講者への質問に一つ一つ丁寧に回答し、参加者からは「解説がわかりやすくとても満足した」「もっとお話しが聞きたい」などの声が多く聞かれました。

第4弾 令和6年 1月6日(土)

腎臓病・透析
について
～予防を目指して～



医療法人光生会
赤岩病院

腎臓内科の平井和哉医師が講演。腎臓の構造と働き、腎不全症状と疾患、腎臓病の治療について話し、「腎臓は一度機能が落ちてしまうと回復ににくい臓器。腎臓病の予防には日々の生活や食事が重要」と強調。その上で「まずは今の自分の状態を知ることが重要です」と説き、「この講座をきっかけに少しでも腎臓について理解を深めてもらえれば」と話しました。



スポーツをしている中高生と保護者、指導者、理学療法士に興味がある人などを対象に、11月25日(土)、「体幹」をテーマに実施されました。

第1部では「スポーツと腰痛～成長期と成人期による違い～」について、豊橋整形外科鷹丘クリニックの中神和賀雄院長が講演。体幹の役割と働き、画

スポーツ傷害予防教室

「体幹」をテーマに実施

像からわかること、成人期の腰痛、成長期の腰痛について解説し、その上で、腰痛分離症とリハビリについて話しました。

中神院長は「私も腰痛で悩まされてきたが、リハビリを継続することで60歳を過ぎても現役で働くことができています。予防のためのトレーニングやストレッチが大切。日頃から心掛けてください」と呼びかけました。

第2部では、医療法人整友会スポーツ班の理学療法士らが、「腰痛で悩む人・予防したい人へ」と題してトレーニン

グ方法を指導。参加者は積極的に体を動かし、正しい体の動かし方を体験しました。



「青少年のための 科学の祭典2023」 東三河大会

●経営学部今井ゼミ が出展!

経営学部の今井正文教授のゼミ生たちが取り組んでいるプログラミング道場「CoderDojo 豊橋」が1月20日(土)21日(日)の二日間、豊橋市こども未来館こここで開催された「青少年のための科学の祭典2023」に出展しました。

テーマは、「自分だけの7色に光るLEDバッチをプログラミングで作ってみよう」。



小学生を対象にした初心者のためのプログラミング教室で、ゼミ生7人が演習スタッフとしてサポート。子どもたちは、ノートパソコンを使ってビジュアルプログラミングに挑戦し、光る色や光るパターンを変えて自分だけの光るLEDバッチを作りました。そのLEDバッチをペットボトルのなかに入れて様々に光る様子を楽しみました。大好評でした。

今井教授は、「プログラミングの入口のところを体験してもらいました。やりたいことを思いついたときに自分でできるように使いこなしていく、そのきっかけになれば」と話しました。

2月4日(日)には、岐阜県で開催された「大学生サイエンスフェスティバル2024」にも出展。初心者でも楽しめるプログラミング体験に多くの子どもたちが参加し、学生たちにとっても良い体験になりました。

「丹羽奨励生」

●理学療法学科2年の 中原蓮さんが 選ばれました



名古屋市の公益財団法人大幸財団(加藤延夫理事長)による2023年度(第33回)「丹羽奨励生」の芸術・文化の分野で、本学保健医療学部理学療法学科2年の中原蓮さんが奨励生に選ばれました。「丹羽奨励生」は、芸術やスポーツ等において優れた成果をあげた県内の高校生や大学生、大学院生を対象にした奨励金制度です。

中原蓮さんは、豊橋市出身。市立牟呂中学校の部活動でクラリネットをはじめ、豊橋商業高校の吹奏楽部で活躍し、大学入学後は市内の音楽教室で個人レッスンを受けながら技術を磨いてきました。これまでに様々なコンテストで入賞し、2022年と23年は2年連続でクラリネット・ソロ・アンサンブルコンテスト(クラリネット協会・名古屋主催)の一般の部で最優秀賞を受賞しています。

中原さんは、「音大生や大学院生ばかりのなかで一般大学の自分が丹羽奨励生に選ばれたことに対して財団関係者から『ここまで両立させるのは素晴らしい』とほめていただきました」と報告。そのうえで「理学療法士を目指すことは変わりません。効率的に勉強し、クラリネットにおいても限られた時間を有効に使い、研鑽を積みたいと思っています」と話し、「身体面は理学療法士の知識と技術で、心の面は音楽の力でサポートできる理学療法士をめざして頑張っていきたい」と意欲を示しました。

愛知県明るい社会 づくり推進東三河 地区大会

●看護学科1年の 椋沢琴音さんが 新城市教育委員会 賞受賞



11月26日(日)、新城文化会館で開かれた「愛知県明るい社会づくり推進東三河地区大会」で、本学保健医療学部看護学科1年の椋沢琴音さんの実践体験文が新城市教育委員会賞を受賞しました。

作文のテーマは、「障がいって?」。本学の学科横断科目の「ボランティア論」の授業をきっかけに取り組んだ活動のなかで感じたことや学んだことをつづった作文です。

受賞について椋沢さんは、「ボランティア論の授業でゲストとして講義された方の施設のボランティアに参加し、感じたことや、『障がい』について日ごろ思っていることなどをまとめました。この作文を書いたことにより、社会における『障がい』に対するイメージを考えるきっかけにもなりました」と述べ、「誰もが平等に過ごしやすい社会になるように、これからもボランティアに参加していきたいと思っています」と話しました。

これからも本学は、学生の地域参加、福祉施設や地域でのボランティア活動を応援、推進してまいります。

愛知県東三河県庁 (東三河総局)と 地域連携協定締結



本学は東三河県庁と、地域における連携協力に関する協定を結びました。10月17日(火)に本学で締結式が行われ、江口幸雄副知事と伊藤晴康学長が協定書に調印。協定書では、若者人材の育成と地元への定着等において、双方が持つ人的資源、知的資源を活用しながら、東三河地域の振興と人材育成で連携・協力することに合意しました。

江口副知事は、「東三河の企業への就職活動支援などに関して、より大きな効果が生まれるよう連携を深めていきたい」と述べ、伊藤学長は、「本学と短期大学部が一貫したテーマとして掲げている“地域密着”をさらに強め、“地域の未来をひらく人材育成”に応えたい」とあいさつしました。

協定後の最初の連携として東三河県庁は、10月28日(土)29日(日)の本学の大学祭における「防災フェス2023」に参加し、県の防災対策などの展示を通して、防災啓発活動を行いました。

創造祭で 「防災フェス2023」 開催

10月28日(土)29日(日)の二日間、創造祭会場で、「命を守るためにできること」と題して防災を呼び掛ける「防災フェス2023」が開かれました。会場には、豊橋市や国土交通省、東三河県庁が出展し、それぞれに東三河地域の防災対策を紹介。国土交通省のコーナーで、VRゴーグルによるバーチャル浸水を体験した経営学部4年生は、「すごくリアルでした。6月の豪雨を思い出しました」と述べ、「防災について具体的に考えるきっかけになりました」と話しました。東三河総局のコーナーでは、県の防災対策を展示紹介し、29日には起震車による地震体験も実施しました。

また、フェス協賛企業による防災啓発ポスターなどが展示され、豊橋手話ネットワークによる「防災に関する手話体験」なども行われました。



▲愛知県が所有する地震体験車「なます号」が登場。多くの来場者が体験し、地震に対する意識を高めました。

新城市と子育て 支援に係る 連携協定を結ぶ

12月4日(月)、本学は新城市と、子育て支援に係る連携協定を結びました。新城市の下江洋行市長と本学の伊藤晴康学長は、協定書を交わして調印し、新城市内における子育て支援の充実と人材育成に関して連携協力することに合意しました。

伊藤学長は「自分たちが住む“まち”を自分たちで良くしていく“人づくり”を基本に、本学の専門性を生かした地域社会の発展と人材育成に貢献したい」とあいさつ。下江新城市長は「保育のニーズが多様化していく中で、安全で質の高い保育が求められている。子育て支援における豊橋創造大学との連携協定は心強い」と述べ、「知識やノウハウを活用させていただき、地域で活躍できる人材の育成にも力を入れたい」と期待を寄せました。

これまでも様々な形で連携事業を展開してきましたが、今後はより体系的な連携協力を進めていきます。



10月28日[土]29日[日]に開催された創造祭2023。テーマは「紡喜(つむぎ)」

各種寄付金ご支援のお願い

本学では、学生の教育研究活動等に対しご支援いただくため、下記のとおり寄付金を募集しております。皆様方からお寄せいただきました寄付金は有意義に活用させていただきます。ご趣旨をご理解の上、ご支援をお願いいたします。詳細は本学ホームページ（QRコード）をご確認ください。

①教育充実資金寄付金

○使途：教育研究活動、就職活動、学生生活、キャンパスの整備など、本学を取り巻く環境の改善・充実のため（※短期大学部創立40周年記念事業に関するご寄付の受付は2024年3月末で終了しました。）

※受付金額：個人の皆様…1口3,000円、法人・団体の皆様…1口10,000円

※金額の多寡に関わらずお受けいたします。

②リサイクル募金

皆様から本・DVD・貴金属等を「リサイクル募金きしゃぽん」（運営：嵯峨野株式会社）へご提供いただき、その査定換金額が本学へ寄付される募金です。

○使途：教育研究活動の充実・整備のため

●お問い合わせ

学校法人藤ノ花学園 豊橋創造大学・豊橋創造大学短期大学部
総務部庶務課 TEL.0532-54-9724 mail.kifujimu@ml.sozo.ac.jp



豊橋創造大学生協設立

豊橋創造大学に大学生協が設立されました。食堂や売店などの運営を行うなど、大学の福利厚生機能を担い、大学生活がより豊かになるように、入学から卒業までサポートします。

●大学生協加入で受けられる各種サポート

○学修と研究のサポート・学びサポート・住まいサポート・食生活サポート・健康安全サポート

●お問い合わせ

豊橋創造大学生生活協同組合 TEL.052-839-2880(2024年3月末まで)



住まい・暮らしの情報サイト 「SALAつむぎ」に健康情報連載

サーラグループの各社が協働運営している住まい・暮らしの情報サイト「SALAつむぎ」に、保健医療学部理学療法学科の八木幸一教授が健康情報を連載中。「健康寿命」から、理学療法士の視点で捉えた「住まいの環境整備」の提案まで、健康な暮らしにつながる様々な情報を発信しています。

◀「健康」カテゴリーにて連載中

<https://tsumugi.sala.jp/>



豊橋創造大学
豊橋創造大学短期大学部

豊橋創造大学

保健医療学部 理学療法学科
保健医療学部 看護学科
経営学部 経営学科

豊橋創造大学短期大学部

幼児教育・保育科
キャリアプランニング科
公務員別科

豊橋創造大学大学院

健康科学研究科 健康科学専攻

2024年3月

■編集・発行：地域連携・広報センター TEL.0532-54-9729 FAX.0532-54-9731 E-mail:chiren@sozo.ac.jp

<https://www.sozo.ac.jp>

